

令和7年8月28日

スポーツ庁政策課

課長 大杉 住子 殿

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

課長 檜原 哲哉 殿

一般社団法人日本学校保健学会

理事長 植田誠治

次期教育課程等に関する提言

令和6年12月25日に中央教育審議会に諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、子供たちを取り巻くこれからの社会の状況、現在の学校現場の状況ならびに顕在化している課題等を踏まえて、主に審議すべき内容がまとめられました。

特に、子供たちを取り巻くこれからの社会の状況を踏まえた中で、ウェルビーイングの向上が明確に示されたことは大変重要であると考えられます。ウェルビーイングは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあること、そして生きがいや人生の意義なども包含する生涯を通じた持続的な概念であり、また、個人のみならず個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを含む包括的な概念として示されています。ウェルビーイングの向上は教育活動全体を通じて図られるものでありますが、ウェルビーイングの根幹部分に健康があることは言うまでもなく、保健教育と保健管理を大きな柱とする学校保健はその基盤となるものといえます。

また、諮問文においては生成 AI 等の飛躍的な発展にかかわり、個別の知識の集積に止まらない深い意味理解を促し、社会やキャリアとのつながりを意識した指導を行うことが強調されていますが、そのことはまさに保健教育の課題といえます。保健教育の現代的使命は健康情報あるいは不健康情報の氾濫の中で、いかに個別の知識の集積に止まらない健康にかかわる自己決定能力を育てるかということだからです。現代の学校においては、生活習慣の乱れ、メンタルヘルス、性に関する問題に加え、新たな感染症の発生、SNS上での被害・加害、ゲーム依存、オーバードーズなどの新たな健康問題が起こっています。子供たちが長い人生を生きていく過程では、さらに新しい健康問題に直面することもあるでしょう。これらのことに対応するためには、自分自身の人生や価値観を基盤とした上で、新たな課題に対応できるようなレジリエントなコンピテンシーを育てる必要があります。

学校保健の柱の一つである保健教育の、特に小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科目保健は、これまで学校において系統的に健康を学習できる唯一の時間として、多くの課題に対応してきました。今後もここでの学習が、社会科、理科、家庭科（技術・家庭科）、特別の教科道徳、総合的な学習（探究）の時間、特別活動など各教科等とも連携しながら、子供たちの健康、そしてウェルビーイングの向上や健康にかかわる自己決定能力の育成に貢献するためには教育課程等に関して、保健を担当する教師への力量形成に対する支援を含め、下記のことからの検討が必要だと考え提言いたします。

1. 知識にとどまらない資質・能力をより高める授業のあり方

保健の授業においても、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力を育成することが極めて重要である。例えば、知識はもちろん重要な資質・能力ではあるが、保健が対象とする領域においては、知識として知っていてもそれを基盤として健康のための行動を選択できるようにならなくては意味がない。近年改善は図られてきているものの、依然として知識伝達を中心とし、テストで知識を確認して完結するといった授業があることも指摘されている。これから子供たちが生きていく時代では、そのような表面的な知識は生成 AI 等の活用により即座に得られるものでもあり、単なる知識獲得ではない「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力をより一層高める授業のあり方を検討する必要がある。

2. 演習的な活動を取り入れた指導方法の工夫

これからの保健は内容を精選した上で、授業により演習的なものを取り入れ、健康に関するコンピテンシーを育てるべきである。もとより保健は特性として、自他の健康課題や環境などを題材とすることが多く、演習的な活動を取り入れやすい。例えば、「自分や友人などのバイタルサインの測定」「ストレスマネジメントに関する実習」「自分や家族の病気を仮定した医療機関の選択に関する演習」「自宅の防災計画の立案・実施・評価に関する活動」など多様な学習活動が考えられる。こういった活動により、生涯を通じて自他の健康やそれに影響する環境をよりよいものとするレジリエントなコンピテンシーを高める効果が期待できる。

3. 「思考力、判断力、表現力等」のより一層の重視とヘルスリテラシーにつながる技能の獲得

保健で育成を目指す資質・能力に関しては、先にも述べたが、その中でも「思考力、判断力、表現力等」、特に「表現力」の育成に関しては、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの活動をより一層重視し、学んだことを限られた人の間だけではなく、広く発信し行動化するものへと変えていく必要がある。また、現在、技能については、身体的なものに限定されているが、ヘルスリテラシーにつながるような認知的な技能や社会的な技能を加え、それらを子供たちが獲得していくことが必要である。

以上